法音

今月のご法話

深い愛情があって人は育つのです

日蓮宗 法音寺

令和２年
6月号
No.608

知恩報恩

感謝と親切

今日一日、
受けた恩に感謝しましょう。
恩を忘れぬ人は信頼されます。
今日一日、
人に親切にしましょう。
人が喜び、自分もうれしい。
仏の教えは
知恩報恩の人となることです。

月刊・法音　令和２年６月号 No.608　目次

【信仰の指針】深敬（じんきょう）　敬い合う暮らしが尊いのです ―― 1
【朝のこない夜はない】
深い愛情があって人は育つのです　山首　鈴木正修 ―― 2
◆講日のご案内 ―― 19
◆有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください ―― 19
◆YouTube「法音寺チャンネル」のお知らせ ―― 20
◆仏教まんが・仏壇と位牌 ―― 22
◆お仏壇とご供養 ―― 23
◆知っているようで知らなかった!?法音寺のこと⑥ ―― 31
◆お寺の本棚 ―― 34
◆信仰の力で災難を防ぐ ―― 38
◆信仰によって大難が小難になった体験談 ―― 40
◆支院だより ―― 48
◆福祉のひろば ―― 55
○幸せのお手伝い ―― 59
○昭徳会・初めまして『ケアハウス湯山安立』です ―― 60
○日本福祉大学・学生・生徒の「学びの環境整備」のために ―― 62
◆法音寺は「信仰と福祉のお寺」です ―― 64
◆賛助員ご芳名 ―― 66
◆幸せの種まき／編集後記 ―― 67
◆連載まんが・ひまわり・89　母さんのギブアンドテイク ―― 68
◆法音寺物語 ―― 69
◆法音寺の社会福祉・教育事業

表紙題字・信仰の指針　山首上人さま　書　表紙写真・ショウブ

掲載写真　表紙・信仰の指針・3～19頁：梅田雅臣氏撮影
2頁：加納将人氏撮影

信仰の指針

深敬（じんきょう）

敬い合う暮らしが
尊いのです

日教五



ザクロの花



朝のこない夜はない

山首　鈴木正修

深い愛情があって
人は育つのです

現在の新型コロナウイルス感染拡大の中で、教育についての議論が盛んに行われています。日本人は昔から教育というものを大変重要視してきました。天皇陛下の玉音放送によって終戦を知った人々がまず始めたのが、青空学級だったといいます。

小泉元総理が所信表明演説で引用された「米百俵の精神」も教育の大切さを物語る話です。

河井継之助が率いた長岡藩は戊辰戦争で敗れ、財政が窮乏し、藩士達はその日の食にも苦慮するありさまでした。



そこに窮状を見かねた支藩の三根山藩から百俵の米が贈られてきました。藩士達は大喜びしましたが、大参事・小林虎三郎は贈られた米を藩士に分け与えず、売却の上で学校設立の費用とすることを決定しました。これに反発し、抗議に押しかけた藩士達に虎三郎は言い放ちました。

「百俵の米も、食えばたちまちなくなるが、教育にあてれば明日の一万、百万俵となる」

米百俵の売却金によって洋学局と医学局をもつ国漢学校が設立されました。そこから数多くの俊英が輩出し、長岡藩は近代日本の発展に大いに貢献したのです。

今回は教育のお話です。

京都大学名誉教授で、日本で初めて電子顕微鏡を製作した東昇先生が言われたことです。



「猫は生まれてすぐ、人間が育てても猫に育つ。犬も生まれてすぐ、人間が育てても犬に育つ。ところが、人間は人間の子に生まれたからといって、人間に育つとは決まっていない。育て方によって五千通りの可能性がある」

昔、インドの山奥で、狼が棲む洞穴から人間の女の子が二人発見されたことがあります。狼がさらっていって、穴の中で育てていたのです。推定年齢８歳くらいだった二人は人間の世界に連れ戻され、人間としての教育を受けたものの効果なく、衰弱して亡くなってしまったということです。この二人には狼と同じ特徴がありました。暗闇でも眼が利き、その眼がらんらんと光っていたと言います。遠く離れたところにあるエサにも鼻が利いたそうです。また四つ足で物凄い勢いで走ることはできても、二本足で立つことはできなかったそうです。食事に手を使うことができず、貪り喰う姿は狼そのものだったと言います。また夜中の一



定の時刻には遠吠えをしたそうです。人間に生まれても狼に育てられると狼同然になってしまうのです。恐いことです。

人間が人間を育てるのに一番大事なものは何か、それは愛情です。

１９９０年代にフジテレビ系列で『ひとつ屋根の下』というドラマが放映されました。江口洋介さん演じる「あんちゃん」はドラマの中で何かが起こるたびに、「そこに愛はあるのかい？」と言っていました。これは放送当時、流行語になりました。以前、ラジオでコーチングをしている人が「部下が失敗した時に、『何でそうしたんだ？』という聞き方には意味がない。そこには愛がないからだ。その時求められているのは理由ではなく、再発防止である。『何か事情があったんだね』と聞くところに愛がある」と言っていました。



昭和の時代に多くの教師に影響を与えた東井義雄という教育者がいます。東井先生の本にあるエピソードを読むと、教育とは愛情であるということをつくづく思わされます。二つのお話を紹介します。

昭和初期、大阪に松原春海という先生がいました。その先生のクラスにはケンちゃんという、とてもやんちゃな子がいました。先生は赤いインク瓶にペンを差して採点していましたが、ある時、先生の留守中に、ケンちゃんはそのインク瓶を持ち出して遊んでいてインクをぶちまけてしまいます。インクで手は真っ赤になり、服にもつき、洗っても取れません。家に帰ったケンちゃんにお母さんが、「一体どうしたの。また何か悪いことをしたんじゃないの」と問いただします。ケンちゃんは「先生の手伝いをしていたんだ。先生は『助かった』と言って喜んでいたよ」と嘘を



つきました。お母さんは、いつも叱られている息子が先生からほめられたと聞いてとても喜びました。お母さんの喜ぶ姿を見て、かえってケンちゃんは罪悪感に苛まれます。そこで、ケンちゃんは先生に手紙を書きました。

「インクで遊んでいたのはボクです。先生、ごめんなさい。お母さんには先生の手伝いをしたと嘘をついてしまい、とても悲しい気持ちになりました」

この手紙に松原先生が返事を書きました。

「本当のことを言ってくれてうれしいです。勇気を出して謝ってくれたことを先生はとても喜んでいます。今度お母さんに会ったら『ケンちゃんが手伝ってくれて、とても助かりました』と言いますね」

もう一つのお話も昭和初期の頃のことです。

熊本県に徳永康起という先生がいました。その先生のク



ラスに成績の悪い少年がいました。その子は成績の良いお兄さんと比べられ、いつもお父さんから叱られていました。その子がいつも削られていない鉛筆を持ってくるので、徳永先生は「どうして君は鉛筆を削ってこないんだい」と聞きました。その子が言うには、「鉛筆削り用のナイフを買ってほしい」と父親に言ったところ、「勉強のできない奴に、そんなものは必要ない」と言われたということで、お兄さんには買い与えても、自分には買ってくれないとのことでした。

ある日、クラスの生徒が「買ったばかりのナイフがなくなった」と、先生のところに訴えてきました。はっと思った先生は、誰もいない教室に行って確認すると、あの少年の机の引き出しの中に新品のナイフを発見しました。引き出しをそっと閉めた先生は慌てて自転車を走らせ、近所の金物屋で全く同じナイフを購入し、「盗まれた」と言って



いた子の机の引き出しの奥の方に入れました。

生徒達が教室に戻ってきたところで、「ナイフがない」と訴えていた子に先生は、「君は慌て者だからな。もう一度よく探してごらんなさい」と促します。そこには先生の入れたナイフがあり、「先生、ありました」とその子は喜び、事なきを得たのです。ナイフを盗んだ少年は潤んだ目で先生を見つめていたそうです。

時が流れ、その少年は19歳になり、徳永先生に少年から手紙が届きました。

「明日、僕は（特攻隊員として）見事に戦死できると思います。その前に先生にお礼を申し上げたい。あの時、先生は何も言わないで僕を許してくださいました。死が直前に迫った今、そのことを思い出し、お礼を申し上げます。ありがとうございました。お身体を大切にしてください。そして、これからも僕のような子どもをよろしくお願いしま



す」

東井先生は言われます。

「教育というのは、こういう先生達のように深い愛がないと成り立つ仕事ではないのです」

一昨年、昭徳会の福祉セミナーで、山元加津子先生に講演していただきました。特別支援学校の先生だった方で、映画『1／4の奇跡〜本当のことだから〜』で一躍有名になられました。とても穏やかな方でした。

山元先生が穏やかでおとなしいのは子どもの頃からの性格のようで、ある時、中学校の同窓会に行ったら、「カッコちゃん（山元先生）はトイレにも一人で行けなかったよね。通学バスでも、皆に先を越されて取り残されて次のバスに乗っていたよね」と言われたそうです。とても弱々し



いカッコちゃんでしたが、クラスメート達が大変驚いたことがあったと言います。

ある日、一人の生徒の給食の集金袋がなくなっていました。若い先生は一人の少年の胸ぐらをつかみ、「盗ったのはお前だろ。わかっているんだぞ」と怒鳴りつけました。少年は「僕は盗っていない」と泣いて叫んでいました。それでも怒りのおさまらない先生は、真っ赤な顔をして机を持ち上げようとしました。その時、カッコちゃんが「やめて、やめて、してないって言ってる、してないって言ってる」と泣きながら先生の腕にしがみついたのです。

先生はそれ以上追及せずにその場を収めました。その時のことが同窓会で話題になったのです。

カッコちゃんが大学生の頃、その少年から手紙が来ました。高卒で自動車会社に就職したその少年は、社内でトップのセールスマンになったそうです。そしてその近況報告



の後に次のように書いてありました。

「実はあのお金は僕が盗ったんだ。でも、信じて。もうあれからは盗っていないんだよ。それまでの僕はお金を見ると、衝動的に手が動いて盗ってしまっていたんだ。でもね、カッコちゃんが僕のことを信じてくれた。泣きながら必死に僕をかばってくれた。それがブレーキになって、僕はあれからは一度も盗らないでいられるんだ。カッコちゃんのお陰で僕は頑張って仕事もできているんだと思う。ありがとう。カッコちゃんは僕の人生を変えてくれた大恩人だ」

その後、カッコちゃんは先生になり、十年ごとに開催される教育課程講習会に参加したときのことです。あの机を持ち上げようとした先生がいたのです。定年間際の先生は当時のことを覚えていて、こう言ったそうです。

「カッコちゃん、若い自分をよく止めてくれたね。あの時、止めてくれていなかったら、僕は教員を辞めていたと思う。



君のお陰で定年まで教員を続けられたよ。カッコちゃんがあいつを信じてあげられたのに、どうして僕は信じてあげられなかったんだろう」

〝盗った・盗っていない〟という問題ではなく、〝人間を信じる〟ということが大事なのです。〝仏性を信じる〟と言ってもよいかもしれません。山元先生の人間を信じる力が、後の特別支援学校での数々の奇跡を起こしたのではないかと思います。

最後にもう一つお話を紹介します。

スーパーティーチャーとして有名な小玉宏さん（通称たまちゃん）は講演や化学の授業、そしてユニークな筆文字で全国の子ども達を励まし続けています。小玉さんは、高校時代、進学校に通っていたのですが、勉強に対して全く



やる気がなく、特に理科と数学が大嫌いで、仮病を使っては授業をさぼっていたのです。ある時、生徒指導の先生に呼び出され、職員室の真ん中で「お前の目は腐っちょる」と怒鳴られました。そう言われても、よけいにふてくされ、どんどん成績は下がり、落ちこぼれていきました。

小玉さんが3年生になった時、新しい化学の先生が赴任してきました。化学関連の会社で長年働き、一念発起して教員になった方です。新任ではあっても、年配のその先生は、「私は右も左もわかりませんが、よろしくお願いします」とおもしろい挨拶をされたそうです。

この先生との出会いが小玉さんの人生を変えたのです。先生の授業は、目から鱗が落ちるくらいにわかりやすかったそうです。気がつくと化学が大好きになり、得意科目になっていました。そして、〝自分も将来、あの先生と同じ大学に進学し、勉強をしたい〟と考えるようになりました。



その後、本格的に勉強して先生の母校である広島大学をめざしました。模擬試験では志望者の中で最下位でしたが、却ってそれに発奮して猛勉強したそうです。

合格発表の日、学校から電話をかけてきてくれたのは以前「お前の目は腐っちょる」と言った生徒指導の先生でした。

「小玉、合格だぞ。おめでとう。本当によく頑張ったな」

この先生はずっと小玉さんのことを見守ってくれていたのです。電話口で自分のことのように喜び、泣いていたそうです。

小玉さんが直接、化学の先生に広島大学合格のことを報告すると、満面の笑みで「おめでとう」と力強く手を握ってくれました。小玉さんは「今でもあの笑顔が忘れられない」と言います。

大学2年生の秋頃、大学院進学の希望調査書が届きまし



た。〝大学院に進んでもっと化学の研究をしたい〟という気持ちがある一方で、〝早くあの先生のようになりたい〟という思いもあり、決めきれなかった小玉さんは〝そうだ先生に相談しよう。先生のアドバイス通りにしよう〟と考えたそうです。

小玉さんは言われます。

「その時、先生からもうこれ以上ないくらいの、人生を大きく変えるアドバイスをいただくことになりました」

実は、母校を訪ねると、数週間前に先生が亡くなったことを知らされました。先生は以前勤めていた会社の健康診断で癌を患っていることを知り、自分はそう長くは生きられないと感じ、若い人達に化学のすばらしさを伝えたいという一心で、会社を退職して学校の先生になったのです。余命をすべて子ども達のために捧げたのです。そこで小玉さんは、なぜ先生の授業が自分の心をあんなに動かしたの



かが一瞬でわかりました。小玉さんは帰りに学校の自転車置き場で、先生のことを思い出し、涙が止まりませんでした。最後には大声をあげて泣きました。そして決心したのです。

〝先生の思いを受け継ぐのは自分だ。自分はこの先生を一生の目標にして化学の教師として生きていくんだ〟

最後に小玉さんの言葉です。

「先生は私に対して、『勉強しろ』とか『生活態度をきちんとしろ』とか『立ち直れ』とか、そんなことは一言も言いませんでした。いつも笑顔で優しく接してくれました。カリスマとはその背中で人の生き方を根底から変える力を持つ人のことだと思います。私にとって先生は永遠のカリスマです。一生をかけて先生の背中を追い続けます」

愛情には人の心を真に動かす力があります。これは三徳の慈悲です。



良い教えの話を聞きましょう。
全国の法音寺各支院・布教所で
三徳の教えを聞くことができます。
是非ご参詣いただき、
教えを心にしみ込ませましょう。

❖今月の山首上人さまご親修日程

開基堂	6月10日(水)	安城支院	6月18日(木)
豊川支院	6月20日(土)	一宮支院	6月25日(木)
上野支院	6月28日(日)		

有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください

支院名	今月の講話日など	住所	電話番号
大乗山泰明寺	5日・20日	名古屋市中村区名駅2－37－3	☎〈052〉581－2069
開基堂	10日	江南市寄木町天道18	☎〈0587〉53－5436
東京支院	7日・20日・27日	東京都練馬区谷原2－6－37	☎〈03〉3904－1251
山形布教所	10日	山形市長町2－4－6	☎〈023〉681－0770
静岡支院	2日・12日・22日	磐田市城之崎4－7－3	☎〈0538〉32－6625
豊川支院	4日・20日	豊川市中野川町1－26－3	☎〈0533〉86－4704
安城支院	6日・18日・28日	安城市新田町小山31－25	☎〈0566〉76－2504
明川支院	11日・26日	豊田市明川町堂ノ脇1－2	ご連絡は本山寺務局へ
佐屋支院	4日・13日・24日	愛西市大井町浦田面296	☎〈0567〉32－1825
一宮支院	5日・15日・25日	一宮市大江1－7－4	☎〈0586〉72－7208
西春支院	2日・12日・22日	北名古屋市九之坪東ノ川20	☎〈0568〉22－5813
岐阜支院	4日・13日・18日・24日	岐阜市切通7－15－22	☎〈058〉245－2939
笠松布教所	12日	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23	☎〈058〉388－2740
大垣支院	1日・11日・21日	大垣市宝和町5	☎〈0584〉78－4854
関支院	3日・13日・23日	関市西福野町2－15－11	☎〈0575〉22－0776
平賀支院	5日・15日・25日	関市市平賀213－2	☎〈0575〉23－3771
郡上八幡支院	8日・22日	郡上市八幡町小野7211－3	☎〈0575〉65－3933
四日市支院	3日・13日・22日	四日市市赤堀2－4－7	☎〈059〉352－3633
上野支院	1日・11日・21日・28日	伊賀市上野向島町3475	☎〈0595〉21－0127

京都支院	1日・9日・20日	京都市上京区北横町360	☎〈075〉231－3437
高槻支院	7日・21日	高槻市天神町1－9－2	☎〈072〉685－1003
大阪支院	13日・23日	大阪市此花区西九条3－4－41	☎〈06〉6465－5051
和泉支院	6日・22日	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404	☎〈0724〉66－3112
神戸支院	13日・21日	神戸市兵庫区五宮19－17	☎〈078〉360－4884
淡路支院	5日・25日	南あわじ市神代国衙910	☎〈0799〉42－0175
岡山支院	7日・9日・23日	岡山市南区若葉町1－16	☎〈086〉262－0818
高知布教所	12日	高知市上町5－5－39	☎〈088〉823－1983
福山支院	1日・21日	福山市西町3－19－5	☎〈084〉921－3078
三原支院	13日・28日	三原市皆実2－9－22	☎〈0848〉62－5087
安芸津支院	6日・21日	東広島市安芸津町三津3765－3	☎〈0846〉45－4012
坂　支院	21日	広島県安芸郡坂町坂東2－24－12	☎〈082〉885－1064
福岡支院	7日・15日・21日	福岡市早良区城西2－11－37	☎〈092〉821－7975
壱岐布教所	13日・23日	壱岐市石田町池田東触1112	☎〈0920〉44－5445
筑後布教所	14日・28日	筑後市大字西牟田5954－1	☎〈0942〉53－7273
天草布教所	1日	上天草市大矢野町維和15021－1	☎〈0964〉58－0742
田川支院	7日・21日	田川市春日町7－30	☎〈0947〉42－1819
名古屋地区	7日・17日・27日	名古屋市昭和区駒方町3－3	☎〈052〉831－7135
瀬戸布教所	9日・19日・29日	瀬戸市東本町2－20	☎〈0561〉85－6860
亀岡布教所	8日・28日	亀岡市篠町篠牧田73－1	☎〈0771〉25－7807

※スケジュールは変更されることがあります。詳しくは各支院・布教所にお問い合わせください。（掲載順不同）

YouTube 法音寺チャンネル更新!

山首上人大導師 祈願唱題行
（於:法音寺大本堂）
を公開しました。



みなさま
ご覧ください



法音寺では連日
「新型コロナウイルス
悉皆成仏」のための
唱題行を行っています。





司会進行:
鈴木廣修上人

一日も早くこの窮状から脱却できるよう
諸天善神に祈りを捧げています。

新型コロナウイルスによる国内被害の
終息までお題目を唱えましょう

この動画のDVDをご希望の場合、申込書に必要事項をご記入の上、
FAXまたは郵送で法音寺までお申し込みください。

YouTube 唱題行の動画はこちら →
https://youtu.be/aTMlg8eumw0

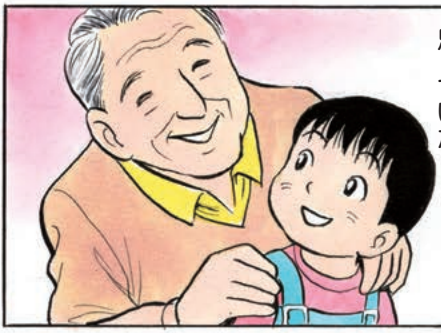

仏壇と位牌
いつも見守っているよ
Juntakenaka

じいじはボクと
いつも遊んでくれた

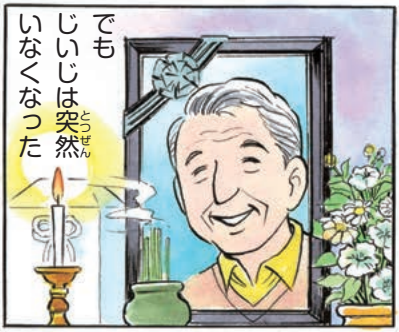
じいじと
ボクは大の
仲よし



ずーっと一緒に
いられると
思っていた



でも
じいじは突然
いなくなった



ボクはとても
悲しかった

もう…じいじには
会えないんだ



それから
時は流れ

ボクは小学校に入学し
友達もでき

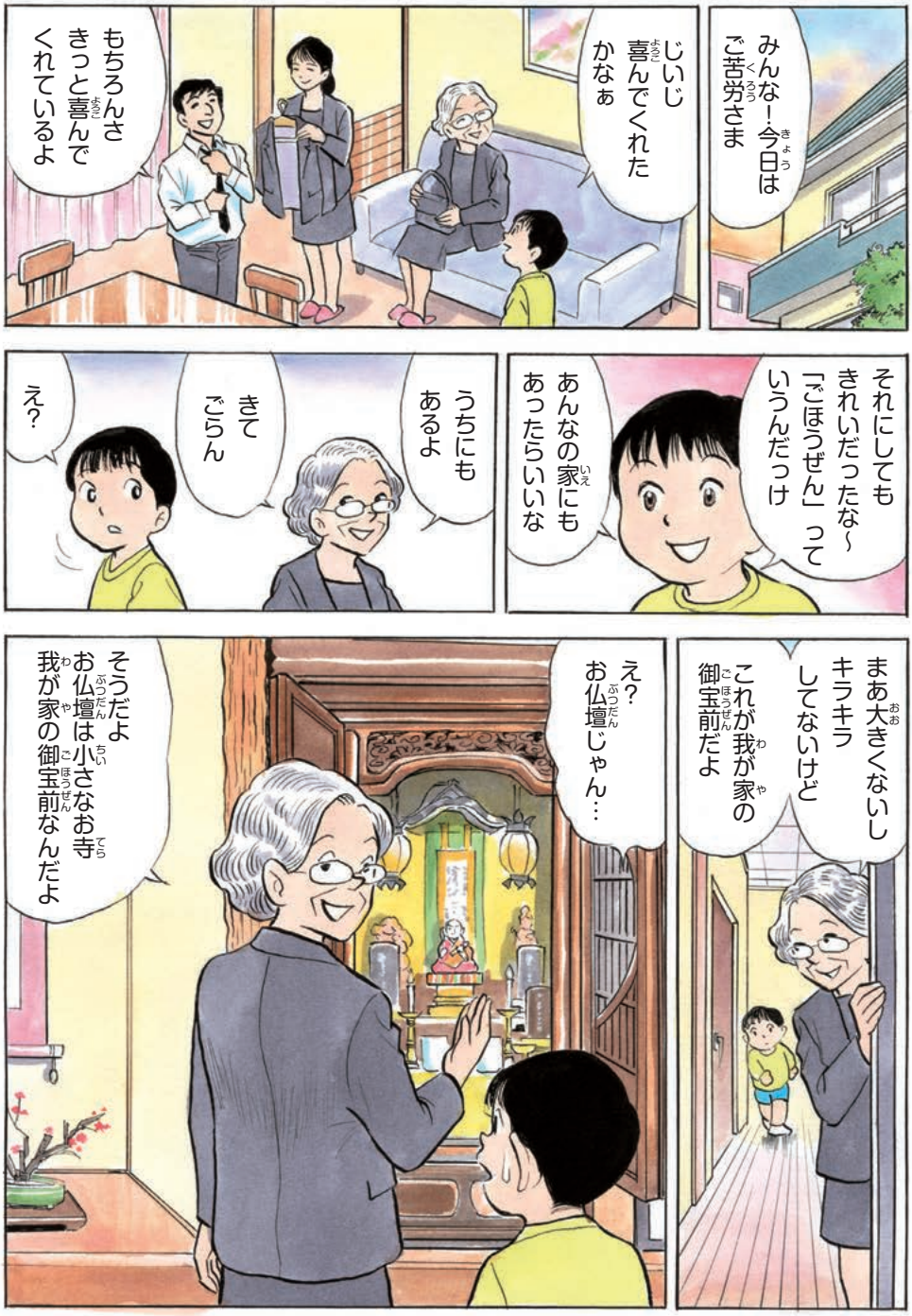


それとともに
じいじの記憶は
少しずつ
うすれていった

でも一人でいる時
じいじのことを思い出すと
涙がこぼれる




今日はじいじの三回忌のお参り
うわぁ～
おばあちゃんすっごくきれいだね
本当だねキラキラしてきれいだね
こんなきれいなもの初めて見たよ
おや前におじいちゃんと一緒に来たんだけど忘れちゃったかい？
う～んおぼえてないや
南無妙法蓮華経
南無妙法蓮華経


みんな！今日はご苦労さま
じいじ喜んでくれたかなぁ
もちろんさきっと喜んでくれているよ
それにしてもきれいだったな～「ごほうぜん」っていうんだっけ
あんなの家にもあったらいいな
うちにもあるよ
きてごらん
え？
まあ大きくないしキラキラしてないけどこれが我が家の御宝前だよ
え？お仏壇じゃん…
そうだよお仏壇は小さなお寺我が家の御宝前なんだよ

お寺にある
大きな御宝前は
来た人達
みんなを見守り…

そして小さな
御宝前のお仏壇は
家族それぞれを
見守ってくださる
仏さまのおられる
場所なんだよ

そして…
おじいちゃんも
ここにいるんだよ

あ　裏に
じいじの名前が
書いてある！

これはお位牌といって
おじいちゃんの魂が
宿っているんだよ

おじいちゃんは
お仏壇から
仏さまと一緒に
家族を見守って
くれているんだよ

そういえば
じいじはいつも
お仏壇の前で
なんかしてたな…

じいじ
なにしてんの

仏さまにお供え
してるんじゃよ

お供え？

お線香を焚いて
良い香りを
ご供養して
ろうそくを灯し

花は色どりや
美しさをご供養して
日頃のご守護に
感謝するんじゃ


カンシャ？
わしら家族が健康で
幸せに過ごせるのも
おまえが元気に大きく
なっていけるのも
全部仏さまや
ご先祖さまが見守って
くださっているからな
ありがとうって…
感謝するんじゃ
お仏壇にはその家の
歴史が詰まっておってな
こうして
孫のおまえの時代まで
絶えることなく
続いてこられたのは
仏さまとご先祖さまの
ご守護のお陰なんじゃ
お仏壇には
仏さまとご先祖さまが
いつもおられるんじゃよ
ご先祖さまって
ずっと昔に
死んだ人でしょ
そんな人が
ここにいるの？
じいじ会ったこと
あるの？
ああ
こうして
お仏壇に手を合わせて
いると
亡くなった方達も
喜んで
ここに来て
くださるんじゃ

おまえも
やってみるか?

うん

じゃ心をおちつけて
おだやかな
気持ちで
手を合わせ

目をそっと
つむって…

じいじ
ボクは今
とっても
じいじに
会いたいよ

じいじが
いったとおりに
したら
会えるかなぁ

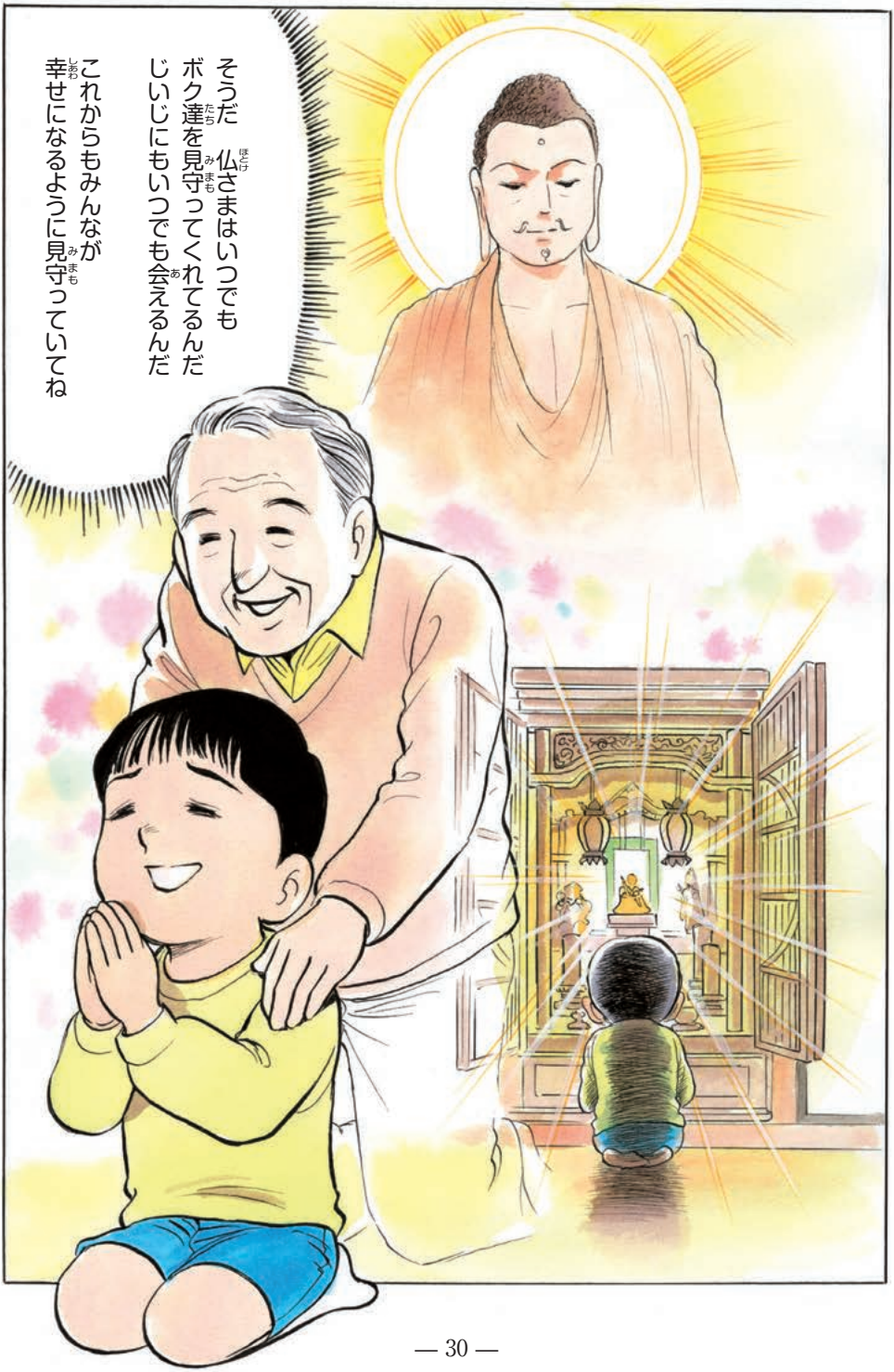
じいじはいつだって
おまえのそばにいるよ

前のように
遊んだりはできないけど

いっしょに
こうやっていつでも会える

これからも
ず〜っと
わしらは大の仲よしだ

じいじ…


そうだ　仏さまはいつでも
ボク達を見守ってくれてるんだ
じいじにもいつでも会えるんだ
これからもみんなが
幸せになるように見守っていてね

お仏壇とご供養

お寺に来られると皆さんは本堂へ向かわれると思います。本堂には**御宝前**とよばれる場所があります。御宝前とは〝仏さまの前〟という意味です。

御宝前には仏さまがおられます。仏さまは、お寺に来られた方や檀信徒の方々を見守り、守護してくださいます。

〝お寺に来なければ仏さまは見守ってくださらないのか〟と思うかもしれませんが、ご自宅にも御宝前があります。それが、**お仏壇**です。

お仏壇は小さな御宝前と同じです。仏さまとご先祖さまが、家の中を見守り、守護してくださるのです。

皆さんはお仏壇の前に座り、さまざまなご供養をされると思います。線香・供花・ろうそく・お供え物、これらの物は仏さまやご先祖さま



に私達がご供養させていただくものです。

ご供養は大きく三つに分けられます。

一、利供養（物質的なお供え）
二、敬供養（仏さま・ご先祖さまの功績をたたえること）
三、行供養（自身の正しい行いによって仏さま・ご先祖さまに喜んでいただくこと）



「利供養」は、線香・供花・ろうそく・お供え物など、物質的なご供養のことを言います。線香は良い香りを、お花は華やかさや彩りを、ろうそくは明るさや温かさを、お供え物は自分の心が形になった品々として、ご供養させていただくのです。

「敬供養」は御仏壇の前に座り、仏さま・ご先祖さまのお位牌を見て、自分を見守り守護してくださることへ感謝の気持ちを持って手を合わせることです。〝ご先祖さまの誰一人が欠けても今の自分は存在していない〟ので、感謝の念がより大きくなりま

す。

「行供養」は感謝の気持ちで「南無妙法蓮華経」とお題目を唱え、日々三徳を実行して人を喜ばせる行いを、仏さま・ご先祖さまに報告することです。



「供は供える、与えるということ。養はその相手の善心を養う、その心の喜びを養うということであります。供養の対象となるものは仏ですが、その仏は、いまは亡き仏と生ける仏とあります。（中略）この供養は亡き仏への供養はもちろんながら、生きた仏に供養すれば〝当に今世に於て現の果報を得べし〟と法華経にあります」

（御開山上人述）

生きた仏というのは今、自分のまわりにいる人々のことです。

日々の仏さまの御守護、ご先祖さまからいただいた命の流れに感謝の心を持ち、手を合わせ、「南無妙法蓮華経」とお題目を唱えましょう。

知っているようで知らなかった!?

法音寺のこと⑥

～難病根治への挑戦(3) 神山復生病院(こうやまふくせいびょういん)～

フランス人神父によって設立された神山復生病院は、静岡県・御殿場の黄瀬川のほとりにありました。当初、病院はフランス本国からの援助で支えられていましたが、大正3年に始まった第一次世界大戦以降、援助金は途絶し、経営は困難を極めていました。たつ（杉山辰子先生）が斎（村上斎先生）・みつ・千代子とともに奉仕に訪れたのは、そんな頃でした。

奉仕を始めるにあたり、たつが「患者達の病の一番のもとを取り除くために、法華経の話を患者達に聞かせても良いでしょうか」とうかがうと、ドルワール・ド・レゼー院長は「ハンセン病患者というだけでひどい仕打ちを受けてきた人々の心が慰められるなら、たとえ仏教の話でも私は歓迎します」とたつの申し出を受け入れてくれました。



御殿場に宿をとったたつは毎日病院に通い、他の療養所でしてきたように、患者の包帯を替え、痛む体をさすり、話し相手になりました。斎も医師として診察し、みつと千代子は洗濯や炊事も手伝いました。たつ達の親身な奉仕は院長のレゼー神父を喜ばせました。

さまざまな患者と話す日々を重ね、信仰を理解できそうな患者達を集めて法華経の話をするようになりました。

「世界は因果の二法によって成り立っています。病気を作っている悪い因縁以上の善い因縁ができれば、いくら医薬に見放された病気でも、その状態を変えることができます。どうか、私の言うことを信じて、たゆまずお題目を唱えてください」

たつの言葉は患者達の心を動かし、予想以上の結果を呼びました。



体の腫れが引き、痛みが消えるなど病状が好転する人達が出てくると、〝自分達もいつの日か…〟と期待に胸を膨らませ、部屋の外まで聞こえるほどの大きな声でお題目を唱える人も出てきました。

しかし、この状況を苦々しく見ていた人がいました。病院の事務を担当していた日本人でした。彼は院長のところへ出向き、病院の職員でもない人間が勝手に病室に入り込み、しかも仏教の信仰を患者に勧めることを認めている院長を叱責しました。



「いやしくもあなたは神父で、ここはキリスト教会の経営する病院です。その中で〝ナムミョウ〟だなんて、しかも大きな声で…。イエスさまを冒涜するにも程がある。黙認するなら教会本部に報告します」

レゼー神父はなすすべもなく、翌朝病院を訪れたたつに事情を話しました。

「そうですか。残念です…」

患者達に顔を合わせると別れがつらくなるからと、一行はすぐに病院を去り、宿も引き払って名古屋へ戻りました。

一方、患者達はいくら待ってもたつ達が来てくれないことに騒ぎ出し、「名古屋に帰った」と聞かされると、職員の制止を振り切って表に飛び出し、大声を上げて泣き崩れる者もいたとのことです。

神山復生病院

1889年（明治22年）、日本で初めてのハンセン病療養施設として開設された神山復生病院は今も御殿場にある。現在は医療療養型とホスピス病棟を持ち、小規模多機能型居宅介護事業所と訪問看護を行っている。傍らには復生記念館が立ち、当時の様子がうかがえる。（見学無料・要問合せ）

参考文献



『大乗山法音寺三徳開教百年史』(1)



『大乗山法音寺の信仰と福祉』



『安立行』(下)

お寺の本棚

離苦得楽（りくとくらく）

離苦得楽とは、苦しみを離れ、楽しみを得ることであります。即ち、安心立命に達することであります。

では苦とはどんなことでしょう。四苦八苦という言葉がありますが、つまりこれは、一、**生**（生まれる苦しみ）、二、**老**（老いていく苦しみ）、三、**病**（病気の苦しみ）、四、**死**（死ぬ苦しみ）、五、**愛別離苦**（自分の好きな者と別れる苦しみ）、六、**怨憎会苦**（嫌な者に会う苦しみ）、七、**求不得苦**（求めても得られない苦しみ）、八、**五蘊盛苦**（身心の一切の働きを五蘊といいますが、この働きが盛んなればかえってそれについて欲望が起こります。この欲望に苦しむこと）の八つであります。

このように、人の一生は物が有っても苦しむ、無ければなお苦しい、ということで、この苦しみをのがれる術を学び、それによって満足を得、喜びを得る道を求めねばなりません。

法華経には、その苦を離れて真の楽しみを得る教えが説かれてあります。



示教利喜（じきょうりき）

示ということは、仏さまの教えを説き示すことでありますが、その教えは、自ら実行して示すことが大切であります。教えるとは、仏さまの教えの深い意味を、細かく砕いて教えることです。

示教の二字は、相手の人々を幸福にするために教えを説き、教えを説くためには、自分が行って示すということが、一番良いということです。

利というのは、その教えを実行して、利益を得させるように導くことです。

喜とは、満足して喜ばせるということで、仏さまの教えをよくわからせて、喜びの日を送らせるようにすることです。この**利・喜**は、むずかしいことです。どんな善い教えでも、相手がよく理解して、喜んで実行しなければ、その効果はないのです。よく考えねばならぬ点です。それには相手の程度、境遇に応じて、よく理解できるよう、工夫しなければならないのです。

相手を喜ばすためには、ある時は物の施しをしたり、またある時は、相手の心がほぐれるようにしたりして喜ばせ、さらに教えをわからせてあげるようにすべきです。家庭の中でも父母、兄弟に喜びを与えて、教えを示していくことが大切です。

『話の泉』は御開山・泰山院日進上人の御遺稿です。この本を、もっと詳しく読んでみたい方は、法音寺本山、または各支院・布教所までお問い合わせください。

信仰の力で災難を防ぐ

始祖・杉山辰子先生が神通力で災害を事前に予見されたことは、多くの先師によって語り継がれています。

大正7年のある時、杉山先生は、全国に悪性の感染病（スペイン風邪）が流行して多くの人が亡くなることを予見されました。また大正9年には海外に在留する日本人の大量虐殺（尼港事件）を、大正10年には当時の首相の暗殺事件（原敬暗殺事件）を予見され、その都度「それを防止しなければ、諸天から〝安立行の再誕〟と言われても甲斐がない」と、名士に働きかけて建言書を各大臣に送りましたが、まったく相手にされませ

んでした。次々に予言が的中していく中、いかんともしがたい状況に杉山先生は大変苦しまれました。

大正10年、杉山先生は数年のうちに大震災が起こることを予見されました。このような予言を世間に公表することは法律で禁じられていました。それでも、いよいよ近いと思われた杉山先生は、大正12年の夏、東京支部に新聞記者達を招き、新聞で発表できないかと相談しました。ところが、「世間に発表することは不可能」と全員から記事の掲載を断られました。なすすべなく東京を引き上げることになった杉山先生は



「大難が目前に迫っていることを知りながら、防ぐことができないのは我が身の不徳…」と、東京市民にお詫びの遥拝をして泣く泣く名古屋に戻られたといいます。

名古屋に戻ってから、警察署長に協力を要請したこともありました。署長からは「これは絶対にだめだ。法律にふれるので思いとどまってください」と言われました。それでも杉山先生は署長に詰め寄ります。「それでは、署長に止められたと新聞紙上で発表します」と興奮して言うと、「それなら発表してもよろしいが、法律に背くことはできません。たとえ私が黙認しても他の人が取り締まりますから、そう承知してください」と注意を受け、そこで杉山先生は予言を世間に公表するのは不可能だと知りました。

〝この上は、自らの及ぶ限り妙法宣布に努力するより道はない〟

大正12年9月1日午前11時58分、関東地方は未曽有の大震災に見舞われ、東京も横浜

も市街地で大火災が起こり、壊滅しました。しかし、御札を貼り回った東京支部（五反田）の周辺地域は奇跡的に損害が少なかったそうです。

昭和5年、杉山先生は「9月3日頃、中部地方に大暴風雨がある」と予見されました。不景気の折、農家の最も肝心な時期に、もしも大暴風雨に見舞われたなら、不作はまぬがれません。米価は高騰して一般大衆を苦しめ、農家は飢饉に等しい悲惨な状態に陥るでしょう。

杉山先生・村上先生は仏教感化救済会の全会員と話し合い、「この災



厄を逃れるには、それに相当する功徳を積んで対抗しなければならない」という結論に至りました。

仏さまは「三千大千の国の人々に、その欲求する衣・食・住を与えるよりも、一人の解者（妙法を理解し、信仰する人）を作ることの功徳の方が数千万倍大きい」と申されます。

そこで、近県各地に巡回講演をされました。その後、杉山先生の神通によると、8月29日までの全会員の努力により、難を九割方逃れることができたことがわかりました。残りの一割のために知多郡で妙法宣布し、完全に大難を防止することができたそうです。その年、中部地方に暴風雨が吹くことはありませんでした。

その後、三重県阿芸郡の村田重太郎という方が久しぶりに仏教感化救済会を訪れ、次のように話したといいます。

「不思議なことがあるものです。今年は大暴風雨が確かにあるはずだったのに、何事もありませんでした。長年の経験から、葦の葉に節がある年は暴風雨が必ずくることを知っています。また、蜂は大風の吹く年は家の中に巣を作るのです。今年は葦に節があり、蜂が家に巣を作りました。それにもかかわらず、暴風がなかったことが不思議です。近所の人達に『大風が吹くから対策を立てておくように』と言っていたのですが、今年はついに私が言ったことがはずれました」

傍らにいた村上先生は手を打って「それそれ、それだ。あなたの言われる通り、今年暴風雨があることは間違っていなかったのだ。それがなかったのは、会長はじめ会員が全力を注いで、暴風の防止をしたからだ」と言われました。そばにいた鈴木芳蔵さん（後の鈴木慈学上人）も「災難を予言して、その防止に苦心して難を逃れても、世間の人は真実とは思わないでしょう。でも、村田さんは仏教感化救済会の努力を立証されたのです」と言われたそうです。

国家的な災難は、国民全体が目覚めて一般民衆が妙法に帰依することにより、必ず防止することができます。このことをよく理解し、口にはお題目を唱え、修養に努力してください。必ず諸難は消滅し、不幸の人も幸福となり、世人に模範を示すことができます。この実行が『仏知見を示さんと欲するが故に、世に出現したもう』です。

（参考：『出世の栞』第三号・昭和6年3月）



この一連のお話は私達に何を物語っているのでしょう。法音寺先師の方々は私達に今のこの国難をどのように乗り越えろとおっしゃるでしょう。

法音寺につながる私達は、それぞれ人生を振り返ると、目に見えない功徳の力で守られたという実感が多々あります。「功徳を積むことで難を逃れる」と私達はわかっていても、体験のない人にはなかなか理解されないかもしれません。だからこそ、功徳の力を知っている私達は世の人と同じように過ごすのではなく、今こそ一丸となってお題目を唱え、徳を積み、日々新型コロナウイルスの成仏をお祈りくださる山首上人さまの後に続きましょう。一日も早く穏やかな生活を取り戻すため、僧俗一体となり総力を挙げて取り組みましょう。

信仰によって大難が小難になった体験談

静岡支院　牧野　高久

常日頃からのお徳積みが大切

静岡支院では平成20年10月19日に三徳開教百年・本堂落慶法要が行われました。片づけも終わり、ほっとしていた10月25日の午後3時ごろでした。会社で仕事中の私に、妻から電話がありました。「お母さんが家で倒れて救急車を呼んだから、急いで帰ってきて」とのことでした。

母は当時78歳でしたが、常日頃から元気いっぱいで、三徳開教百年・本堂落慶法要にも参詣させていただきました。22日の支院の講日にも参詣させていただいておりましたので、私は心臓が止まるかと思う程驚きました。

母は救急車で市内の総合病院に運ばれました。主治医から告げられた病名は「くも膜下出血」

でした。倒れてから四十八時間が一番急変しやすく、二～三週間が血管れん縮期とされ、動脈瘤の再破裂の可能性が高いとのこと。手術をしても良くなるためではなく再破裂を防ぐためのもので、年齢を考えると非常にリスクが高いとのことでした。手術をしない場合は再破裂する可能性が非常に高く、回復したとしても車いすの生活になるとのことでした。

結局、手術はやめることになりました。急いでお寺に電話をかけ、新庄上人にお徳をお願いしました。お上人からは「あとは仏さまにおまかせしましょう」と言われ、私も気持ちが落ち着きました。

それから一週間程、何とも言えない毎日を過ごしていた頃、お寺では11月1日より朝勤百日行が始まりました。〝私が母のためにしてやれることは、朝勤を頑張ることしかない〟と思いました。毎朝お寺へ向かう道中、〝ああ今日も一日もった。ありがたい。ありがたい〟という気持ちでいっぱいでした。朝勤中はお経、お題目を大きな声で唱え、〝お徳をいただけるものなら、そのお徳が母に届きますように〟と念じ、参加させていただきました。

山首上人さまのお徳をいただき、危険とされた二～三週間を無事に過ごすことができ、12月中旬には慢性期専門病院へ転院することができました。妻は主治医から「あの状態で助かったのは奇跡だ」と言われたそうです。山首上人さまより、それだけたくさんのお徳をいただけた

ことをありがたく思います。

今回のことで、人間は元気でも、いつどのようなことになるかわからないから、常にお徳積みに精進しなければと真剣に思いました。何かあった場合、頼りになるのは『徳』であり、常日頃からのお徳積みが大切だと教えていただきました。（『信教師会報』第40号　平成21年）

教化

田川支院　上田　豊

平成8年2月28日昼過ぎ、本当に些細なことで私は息子と大喧嘩しました。〝やってしまった…〟と思っても後の祭りです。この時私はご法を聞いて15年、浄心道場に入行するようになり、準教師を拝命していたにもかかわらず大きな罪障を作ってしまいました。

この日の午後8時から某家にて法座がありました。その日の法話がストンと心に入り、懺悔しました。帰ってすぐ息子に謝ると、息子も「僕も言い過ぎました」と言ってくれました。

それから二カ月後の4月30日午前10時半、息子から電話がありました。「お父さん、交通事故を起こした。救急車は連絡してくれた」と苦しげに言います。「どこで？具合は？」と尋ね

ましたが何も言わずに電話は切れました。〝あの時の罪障が出たな〟と思いました。そこに救急車のサイレンが…。これだと思って自転車で追いかけました。息子は担架で救急車に乗せられていました。隊員の方から「打身ですが、内臓までいっていなければ良いのですが」と言われました。私は〝そんなことはない〟と心の中で一心にお題目を唱えておりました。単車に乗っていて車を避けきれずにガードレールにぶつかり、ハンドルでお腹を強打したのです。

病院でレントゲンを取りましたがよくわからず、息子は国立病院へ転送されました。国立病院の検査では、「白血球が2万8千あります。普通の人は8千程ですので、ちょっと心配です」と言われました。一日様子を見ることになりましたが、息子は大変痛がっていました。

翌日本山に電話し、山首上人さま（日達上人）へお徳をお願いいたしました。

一時間程して病院から「今から手術をしますので、すぐ来てください」と、連絡が入りました。その時、私は心の中で〝えっ、お徳をいただいたのになぜ手術を？〟と思いましたが、これは私の大きな間違いです。日達上人は「何かいいこと、嬉しいことがあると仏さまのご利益と思いますが、苦しいこと、悪いことはどうしてもそう思えないものです。しかし病気になることも、苦しいことに出会うことも、みな仏さまが一つのことを教えるために与えてくださったご利益なのです。苦しみ・悩みを与えることによって、その人に気づかせることを『佗事を

示す』というのであります」（大白牛車・五）と教えてくださっています。

午後5時に手術は終わりました。お医者さんから「大変な手術でした。大腸に5百円玉ぐらいの穴があり、小腸も小指の太さぐらいの穴があいていました。お腹の中は大便だらけで水分と血が混じっていたので、水を20リットル使い洗いました。途中ショックで血圧が40にまで下がり、一時仮死状態でした。もう一日遅れていたら駄目でしたが、若さでなんとか持ちこたえました。しかし、ここ三日間が勝負です。油断はできません」と説明がありました。ホッとすると同時に緊張しました。



私は5月2日から浄心道場へ入行する予定でした。当初、息子がこのような状況の中、道場に入行すべきかどうか迷ったのですが、本山に行く決断をしました。息子のそばに付き添っていたとしても医者ではない私には息子に何もしてやることができません。だとしたら、せめて

私が本山に行き、道場に入行し、少しでも徳を送ることができれば、その方がよいと思ったのです。

妻に話すとすぐに賛成してくれました。

春の浄心道場、4日、行が終わった時、お上人から「上田さん、家に電話してください」と言われ、妻に電話しました。

「お父さん、哲二の熱が39度以上あって下がらない。なんとかお徳をいただきたいのでお願いします」

「よしわかった」

すぐに私はお上人にお願いしました。共に入行していた方々も息子のためにと休憩時間中も転読してくださいました。そのおかげで息子は何とか命を保つことができました。

「良かったですね」と側におられたお上人方から言われ、〝ご心配をおかけした上に罪障消滅をしてくださっていたんだ〟とありがたく感謝しました。

5日夜帰宅しますと、息子の容態は一進一退。それから退院するまでの二カ月間、息子、妻、母、兄弟等、失敗しては教化を受けながら良い勉強をさせていただきました。お医者さんは「もしかしたら再手術をしなければならないかもしれないし、退院しても後遺症が出るかもしれま

せん」と言われていましたが、退院後から現在（平成15年4月）まで、おかげさまで、不思議と後遺症は出ておりません。山首上人さま、お上人方、田川支院の皆さま、心ある方々からのお徳をいただいた結果だと、家族一同感謝しております。

息子は今、東京で働いております。二度程、東京支院へお邪魔したようです。お寺では、「病気でも災難でも、突然起こるようなことは決してありません。そうなる因縁が過去にあるから現れてくるのです。それが現れた時、罪障が消滅してゆく時です。現れた罪障を見て腹を立てておりますと、せっかく一つ消えたのに、また一つ作ってしまうことになります。〝罪障が消滅できてよかった〟と、喜びに変えてゆかなければいけません」と教えていただきます。大変むずかしいです。息子は今、私によく相談してくれます。堪忍を破ったことで良い体験をさせていただきました。因果の二法を信じて、正しく見て、正しく思い、正しい言葉で、正しく行動をしていくように、素直な気持ちで精進してまいります。



福祉のひろば

SINCE 1912
SHOTOKUKAI

NIHON FUKUSHI UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION



幸せのお手伝い

～食事は心をはぐくむことのできる場～

子ども達の身体と心に届く食事を提供

私は、児童養護施設で調理員として子どもの食事を作っています。児童養護施設では幼児から中高生まで幅広い年齢の子どもが生活しています。

私が食事を作る仕事に就きたいと思ったのは「おいしい！」という喜びを多くの人に届けたいという思いからです。以前は飲食店で働いていました。飲食店はお客さんがお店の味を求めて来ることが大半であるため、喜びの表情や声を目にすることや耳にすることは多かったのですが、児童養護施設はそのような機会が飲食店のようには多くありません。なぜなら、一般家庭でも多くの親が体験する子どもの好き嫌いの問題、他にも育ってきた環境や年齢での嗜好の違いなど、一度の食事にすべてのニーズを取り入れられないからです。そのため働きはじめた当初は、「明日テストで早いから朝ごはんを早くして」とお願いにきた子どもに『頑張って！』という思いを込め、好きな赤みそのみそ汁にしたり、「ポテトサラダのじゃがいもは全部つぶれていないゴロゴロのものが良い」

と話してくれた子のリクエストを取り入れたり、毎回の食事を色々な角度から工夫し、できるだけ「おいしい」と言ってもらえるように作ってきました。そのように毎日、色々なことを考えながら働いて何年かした時、施設から巣立った子どもが数年ぶりに顔を出してくれた日のことです。「おいしそう！たまにはここのご飯が食べたいな♪」と笑顔で話しかけてくれました。その日のメニューは焼き魚と煮物、おひたしに汁物と、どちらかというとあまり喜ばれない内容でした。その子は魚が出る時は「にがて～」といつも言っていたので、昔の話を交えながらなぜかと聞くと、「ここを出てから一人で生活する中でご飯のありがたみをすごく感じる」とのことでした。

その時、今までは〝食事をおいしく作ることが大事〟という考えで働いてきましたが、〝子どもの生活を支える場での食事はおいしく食べるだけではなく、ありがたみなど心をはぐくむことのできる場でもあるのだ〟と気づかされました。子どもは多くの気づきを与えてくれます。これからも、そんな素敵な子ども達の身体と心に届けられるような食事を作っていけたら、と願っています。

児童養護施設　名古屋若松寮　調理員　川口　太郎



初めまして『ケアハウス湯山安立』です



写真提供・昭徳会

介護型・軽費老人ホーム　ケアハウス湯山安立

～地域と共に自立した日常生活を支援～

令和２年４月１日から昭徳会に仲間入りした施設です。愛知県高浜市湯山町にあるので、施設名は『ケアハウス湯山安立』と言います。

実は、この施設は、２００４年４月から今年の３月末まで別の会社が運営していました。しかし、そこが昨年、施設運営から撤退することとなったのです。そのため、高浜市から当法人に事業承継の依頼がありました。入居されている30名の高齢者と、そこで働く職員を守るために、昭徳会は56個目の事業として引き受けることになりました。

ケアハウス湯山安立は「介護型・軽費老人ホーム」で、要支援１から要介護５までの方が入居の対象となります。全室個室でトイレも各居室にあります。介護が必要でご自宅での生活が困難な方が入居されていますが、施設がめざす援助方針は「自立した日常生活が継続できるように支援すること」です。

１００歳の入居者Ａさんはとてもお元気で、ト

ランプでババ抜きをしたときは「ババ」を引いてしまうと表情に出さないように真剣です。また、高浜市内には5カ所の宅老所がありますが、ケアハウスの入居者さんも宅老所を訪問し、地域の方との交流を積極的に行っています。

ケアハウス湯山安立は、これまでの地域とのつながりにより、さまざまな場面で、地域の皆さまに助けていただいています。例えば、近所のスーパーが月1回、数十種類のお菓子を販売に来てくださいます。入居者の皆さん、袋いっぱいにお菓子を購入して楽しんでいます。また、高浜市ボランティアセンターの協力により、「懐かしの高浜アーカイブス」や「演奏会」等の催しをしていただくこともあります。今後も地域とのつながりを強くしていきたいと思います。



そして、昭徳会の他施設の職員の皆さんにも支えてもらっています。昭徳会は、社会貢献として職員のボランティア活動を推進しており、この活動を『ハチドリチャレンジ』と呼んでいます。早速、4月に他施設の職員さん達が、ケアハウス湯山安立の庭の草刈りに、ボランティアに来てくれました。



今回、新たに昭徳会の職員に仲間入りした16名の職員とともに、18名の職員が力を合わせ、法人の理念に基づいた新たな施設を創っていきたいと思います。

ケアハウス湯山安立　施設長　**小西　由香里**

学生・生徒の「学びの環境整備」のために

～新型コロナウイルス感染拡大に関しての学園の対応～　日本福祉大学



写真提供・日本福祉大学

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、大学、専門学校、付属高校では今、教育、学生・生徒支援、研究、社会貢献活動をどのように継続していくのか、これまで経験したことがない緊急事態のもとで、日々、試行錯誤しながら対応にあたっています。

まずは何よりも、学生・教職員の命を守り、安全を確保することを最優先に据える必要があります。

大学では集合型での卒業式、入学式は中止せざるをえませんでした。言うまでもなく、本学開設以来初めてのことです。学びの場の大きな節目である行事ができなかったことは本当に残念で、忘れることができない春となりました。

新年度が始まり、緊急事態宣言と休業要請を受けて、キャンパスへの入講を制限するとともに、対面での授業は中止とし、オンライン授業に変更しました。前期開始を遅らせ、5月11日から当面の間、学生達はキャンパスに通学することなく、在宅でＩＣＴ（情報通信技術）を活用して学習をすすめます。先生方も急遽の対応に苦心されながら日夜準備に取り組まれており、サポートデスクを開設し、学生・教員双方に対して機器の使用について支援にあたっています。始まったばかりで今後も模索が続いていくことになりますが、新しい学びのスタイルに移行し、教育の質を保証していくことが大きな課題です。

また、専門職を多く育成している本学の特徴として、資格取得や教職免許状取得のための学外実習が欠かせませんが、実習期間の変更や学内実習への振り替えなどの対応を余儀なくされています。実習を通じて得られる力を、このような状況の中でもきちんと身につけられるよう、内容の検討をすすめています。

何よりも心配なのは、保護者や学生達の収入減少による経済的な影響です。学費や生活費の問題に加え、オンライン授業を受講するための環境を整えるにも費用がかかってきます。新たに「新型コロナウイルス感染症対応　緊急貸与奨学金」を立ち上げるとともに、相談窓口も開設しました。残念ながら経済的な苦境はこれから本格化していき、長期化するものと見通しています。経済的な理由で学業継続が断ち切られるようなことがないよう、さらに障害学生、留学生、児童養護施設出身学生など孤立しやすい状況にある学生達への個別支援にもいっそう注力していき、長期にわたって途切れることのない支援を継続していくために募金活動も展開していく予定です。

専門学校や付属高校でも、新年度に入ってからも休校が続いており、オンライン授業への移行に取り組んでいます。大学と同様、新しい学習スタイルを模索しながら、学生や生徒達のモチベーションを維持しつつ、学校再開に備えての準備に余念がありません。

いずれにしても、大学、専門学校、高校とも正課の授業への対応が第一となりますが、学校生活の意義は、教室内に留まることなく、教員・学生同士が直接集い、課外活動も含めて切磋琢磨することによって、全人格的に成長する場を提供することにあります。そういった場が失われていることも考慮し、多方面から学生・生徒への支援を考えていく必要にも迫られています。

この新型コロナウイルスの感染拡大は、収束と再燃を繰り返しながらしばらく続くとの予測も出ています。現在の緊急対応が一時的な対応に留まらず、長期的な取り組みとしての第一歩であることも意識し、それぞれの課題にあたっていきたいと考えています。

しかし、このような状況にあってますます誇りに思うことは、差別と偏見にも負けずハンセン病患者の支援にあたられた創立者・鈴木修学先生の苦闘の歴史と、人材育成への熱い思いがこの学園の根底にあることです。そして、コロナ禍の中、福祉・医療の現場で多くの卒業生が専門職として、私達の命を守り、暮らしを支えるために、日夜懸命に働いてくれていることです。教職員一同、引き続き、建学の精神に思いを巡らせ、一つひとつの課題に真摯に取り組んでいきたいと思います。

学園事務局長　千賀　威昌

法音寺は「信仰と福祉のお寺」です



困っている人達の助けになることで、
法音寺には“**功徳**”が積み重ねられています
（功徳とは、「幸せを引きよせる種」です）
その功徳が信仰を通して
皆さんに授けられるのです



法音寺による社会貢献



社会福祉法人昭徳会の運営を基に
現在1,400名を越える人達の
お世話をさせていただいています



福祉のすべての分野を支え、
利用者さんの幸福を実現します

児童福祉施設

親と暮らせない約170名の子ども達の
生活を支えています

保育園

毎日370名余りの園児達の
成長を見守っています

障がい児・障がい者施設

300名を越える人々に
日々希望を与えています

高齢者施設

600名ほどのお年寄りに
寄り添っています



学校法人日本福祉大学を通じて
児童養護施設出身者の就学金に
皆さんの浄財が使われています





幸せの種まき＝感謝と親切

瞋りも貪りも愚痴も、
〝今日一日、これだけはしない〟
と努力しましょう

心の垢を落としていくと、
気分も良くなり
健康に生きていけます。

大乗山　法音寺

編集後記

仏さまは私達に大きな宿題を与えられたのだと思います。新型コロナウイルスは世の中に深刻な影響を及ぼしました。そんな中、法音寺では早期終息のための祈りが連日捧げられています。

今月は『信仰の力で災難を防ぐ』（40頁より）という特集を組み、信者さんの体験談を掲載いたしました。筆者のお二人は長年にわたり、とても熱心に信仰されています。実は、上田さんの体験談にある浄心道場の場面に編者は立ち会っていました。上田さんの必死な祈りの姿と、〝少しでも力になれば〟と祈りを共にした記憶が蘇ります。そして、息子さんの命がつながったとの報告を聞いた時、私達もどんなにうれしかったことか…。

法音寺につながる私達の多くは、唱題と三徳を実行する信仰によって仏さまにご守護いただいた体験があります。つまり、私達は法音寺信仰による功徳の大きさを知っています。

特集の一環として、本山で行われている唱題行の様子を収録した動画も紹介しています。山首上人さまの後に続いて私達もお題目を唱えましょう。

ひまわり #89

母さんのギブアンドテイク

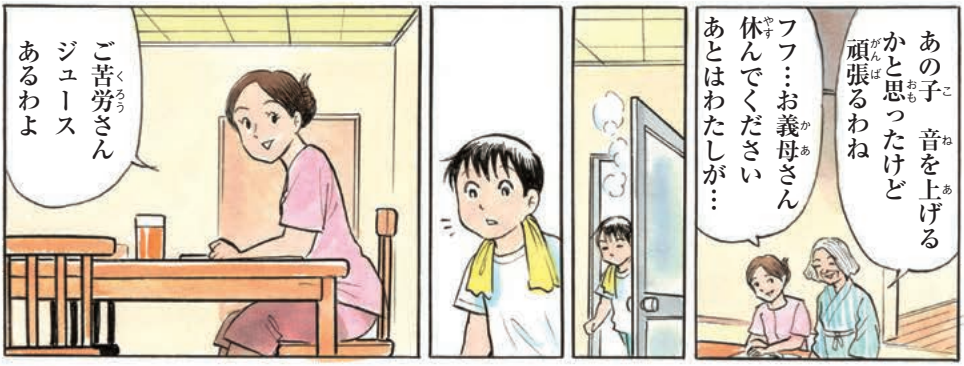
竹中 淳




蓮にカレーを大盛りにしてやったんだ
今度はオレが蓮からなんか受けとる番だ
？
漫画サタデー持ってただろ貸してくれなっ
ダメだよまだよく読んでないもん
なにいってんだよカレーの大盛りがギブでオレが蓮からマンガを読ませてもらうこれがテイク！
ギブアンドテイクだ先生の話きいてなかったのか？
じゃ明日頼むゾ
ギブアンドテイク？しょうがないなァ
蓮 スーパーへおつかい行ってきて！
うん
！
ただいま
おつかいのお手伝いでギブ！


だからぁ
おだちんで
テイク
よろしく！
はあ？
ギブアンド
テイクだよ
ギブアンド
テイク？
蓮はおだちんを
要求してんだよ
なにいってんのよ
お小遣い
あげたばかり
でしょ？
いいわ
じゃあ
わたしが…
お義母さん！
ただいま
ばあちゃん
話わかるゥ
だめですよ
そんなこと
したら…
いいから
ここは
わたしに任せて
ごちそうさま
蓮！母さんは
蓮に夕飯を
与えたんだ
蓮は母さんに
なにか返すのが
ギブアンドテイク
じゃないの？
そうね
え？
これを
ボクが!?


おまえは夕飯を食べさせてもらったんだよ母さんは洗いものはしてもらうギブアンドテイクだね
はーいこれもよろしく
姉ちゃんだって夕飯食べたろ手伝ってよ
わたしはお手伝いしてもおだちんねだったりしないも〜ん
ただいま
おかえりなさい
蓮ばあちゃんがお風呂沸してあげたからね
これ終ったら入るよ
へえ…
じゃ蓮にお風呂をギブ！テイクは蓮のお風呂掃除で返しとくれ
!!
お風呂掃除は蓮がやってくれるそうだからみんなお風呂入って！
なんでボクがこんなこと…
でも母さん毎日やってんだ…


あの子 音を上げるかと思ったけど頑張るわね
フフ…お義母さん休んでください あとはわたしが…
ご苦労さん ジュースあるわよ


なに見てんの
蓮の小さい頃の写真


この赤ちゃん蓮よ
これはお宮参り
七五三


それが今じゃお風呂掃除までしてくれるなんてねぇ
大きくなったなぁって思って見てたの


もうおそいわ寝なさい


明日体育はプールっていってたわね
水着出しといたから忘れないでよ


母さん 一つだけ聞いていい？
え なに？


その夜ボクはなかなか眠れなかった
さっき見た写真が頭の中をかけめぐり


ああぁ
こんなにいっぱい
ボクは父さんや母さんに
してもらってたんだ
ギブしてもらって
ばっかりだ
ボクが
父さんや母さんに
してあげたこと
なんかあったっけ？
うわぁ…
なぁんにも
思いうかばないよ
入学式
父さんや母さんから
ボクはしてもらってばかりの
ギブアンドギブ
じゃないか

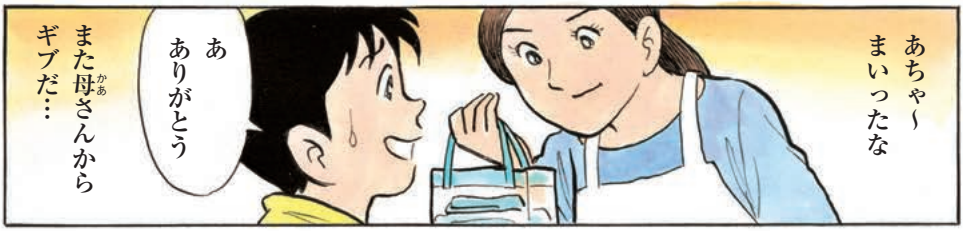

母さん
一つだけ
聞いていい？
母さんはいつも
ボクやみんなの
世話ばかりしてて
わたしにも
何か
してよー
…とか
思わないの？
そりゃ
たまには
のんびりしたい
って思うこと
あるわよ
でも…
ちゃんと
ギブアンドテイク
してるわよ
蓮達みんなの
世話をできること
それがうれしいの
そんな幸せを
返してもらってるもの
よーし
今日から
ボクは
変わるぞ
行ってきます!!
あの子
今朝は
起こさなくても
起きたんですよ
へぇ〜
あ
あの子
ったら…


おーい
蓮！
約束の
マンガは？


忘れた
それより
時間割
きのうの
ままだ
なんだよ～
約束したのに…


ひろみ
ちゃん…
教科書なら
見せられるけど
今日の体育
プールよ


水着
忘れた！
ねぇ
南くんの
お母さん
じゃない？


あちゃ～
まいったな
あ
ありがとう
また母さんから
ギブだ…


委員長
ありがとう
何か手伝うこと
あったらいってよ


まずは忘れもの
しないように
南くんがしっかり
しなさいよ
は～い


こんなことで
くじける
もんか！
めざせ
ギブアンドギブ！

おしまい

法音寺物語

社会福祉という言葉がなかった時代…
人々を本当の幸せにする仏教の精神で
社会的弱者を救済する人達がいました。



貧困にあえぐ人達に食料や医療を施し、
差別を受けたハンセン病を患った人々に
寄り添い、様々な事情で親をなくした
子ども達を養育し、障がいを持つ人々に
生きる希望を与えてきました。



お寺になったのは戦後（昭和22年）のこと。
初代住職・鈴木修学上人は、福祉施設を
運営する中で、本当に人々を救済するには
“専門的知識を身につけた人材が必要”と考え、
日本初となる社会福祉教育専門の4年制大学・
日本福祉大学を開設しました。



その後、“仏さまの教えを実行し、困っている人達を
救済しよう”という理念に共鳴する人達が各地に
増え、全国に40の支院・布教所が設置されました。
多くの心ある人達の善意に支えられて、現在では、
高齢・障がい・児童の19福祉施設が運営され、
大学では多くの学生が社会福祉を学んでいます。





知恩報恩

「ありがとう」と言う私から
「ありがとう」と言われる私に

写真・法音寺大本堂
《山首上人の大荒行御成満奉告法要の砌》

日蓮宗大乗山 法音寺

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3 TEL.052-831-7135
https://www.houonji.com FAX.052-831-9801

講話日
毎月7日・17日・27日
午後1時30分

ホームページにて月刊法音を掲載しています

SNSでつながる法音寺

法音寺公式
facebookで
毎朝7時
『一日一言』
配信中!!

こちらの
QRコードから
ご覧いただけます。

毎週火曜日
法音寺メールマガジン
配信中!!

山首上人のみ教えや毎月の予定、
人にやさしく生きていくための
コツなどを配信します。

こちらのQRコードから
メールマガジン登録フォームを
ご覧いただけます。

YouTube にて
法音寺チャンネル
開設中!!
https://www.youtube.com/user/houonjimovie

こちらのQRコードから
法音寺紹介動画を
ご覧いただけます。

詳しくはホームページ、またはYouTubeサイトで

法音寺 検索

法音寺の社会福祉・教育事業

徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

社会福祉法人 昭 徳 会

- 児童養護施設
- 障がい児入所施設
- 障がい者支援施設
- 特別養護老人ホーム
- 障がい福祉サービス事業
- 養護老人ホーム
- 軽費老人ホーム
- 保 育 所
- 軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)
- 自立援助ホーム

法人本部
〒466-0832 愛知県名古屋市昭和区駒方町4-10
TEL(052)831-5171
http://www.syoutokukai.or.jp

我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

学校法人 日本福祉大学

- 日本福祉大学大学院
- 日本福祉大学
- 日本福祉大学中央福祉専門学校
- 日本福祉大学付属高等学校

法人本部
〒470-3295
愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6
TEL(0569)87-2211
https://www.n-fukushi.ac.jp

法音・令和2年6月号・No.608・令和2年6月1日発行
発行所・日蓮宗法音寺／制作・法音寺広報委員会
非売品／印刷・(株)一誠社